令和５年3月28日

南 の 風 ４７３

南部地区ミニバスケットボール連盟
会　長　藤原　敬一

試合の中で、『クリティカルモーメント』（勝敗を左右するような重要な一瞬や分岐点）を探ることは、コーチのベンチワーク（采配）の力量を高めるために大事な要素になります。

前号までに紹介した試合の中で、私が感じたクリティカルモーメントは、Ａ チームが取ったタイムアウト明けに、Ｂチームがオールコートプレスを続けたことだと書きました。私の考えの正否は別として、ともすると試合の中でコーチは、自チームのことだけを念頭に置いてタイムアウトを取り、差し迫った課題に対処したり、悪い流れを切りに行ったりすることがあります。

しかし、自チームがタイムアウトを取ったということは、相手チームにも作戦の変更や流れを変える機会を与えることになります。ですから、相手ベンチの考えや動きも考慮しなければなりません。

プレスによって連続６失点したＡチームのタイムアウトは、当然プレス対策が考えられます。ボール運びの指示が出されたことは予測できます。（Ａチーム２４－３０Ｂチーム）

前号の繰り返しになりますが、私がＢチームのコーチなら、「ここは、マッチアップエリアからのマンツーマンにしよう。相手は点を取りたいから強引にドライブやカッティングしてくることが考えられるから、足をしっかり使って守り、ボックスアウトしてリバウンドを絶対取ろう」と、基本的なことを確認してディフェンスの指示をすると思います。

結果が分かっているからいうのではなく、大切なことは相手ベンチの動きを読んで戦うということです。今回の事例で言えば、一気に点差を広げようとプレスを続けるという気持ちを抑えて、一旦マッチアップエリアからのマンツーマンに戻し、手堅くディフェンスすることが、私はベストだと思います。

当然ですが、相手は必死に攻めてくることが予測されますから、足を使ってしっかり守りタフショットを打たせ、リバウンドを取り、ボール運びをきっちり行うように指示します。もう一つ付け加えるとしたら、「つまらないファウルを絶対しない」と言うことです。（チームファウル、個人ファウルの確認をしておく）特に相手のシュート体勢のファウルは厳禁です。時間を止めて点数を取られることは、絶対に避けなければならないからです。

このゲームは第１Ｑ から拮抗した展開が続いています。こういうときにコーチは、流れが来たときに早く決着をつけたいと思いがちです。プレスがはまり、点差が４～６点と開くと「もっと引き離したい」と思うことがあります。両チームの力量に差がある場合は、プレスを続けて大量リードできるシチュエーションもあります。ただこのゲームに関しての流れは、そう簡単ではない気がします。「最後までもつれるゲームになる」とコーチは『肚をくくる』ことが必要だと思います。前半の展開を見ても、常に競った状態で進行しています。

勝利の女神はどちらに傾こうか迷っている気がします。確かに一度は、Ｂ チームのプレスがはまり６点のリードができました。ここに落とし穴があった気がします。

私も過去に、手痛い逆転負けを食らったケースがありました。ゲームを振り返りクリティカルモーメントを探ることは、確実にコーチのベンチワークを高めると思います。